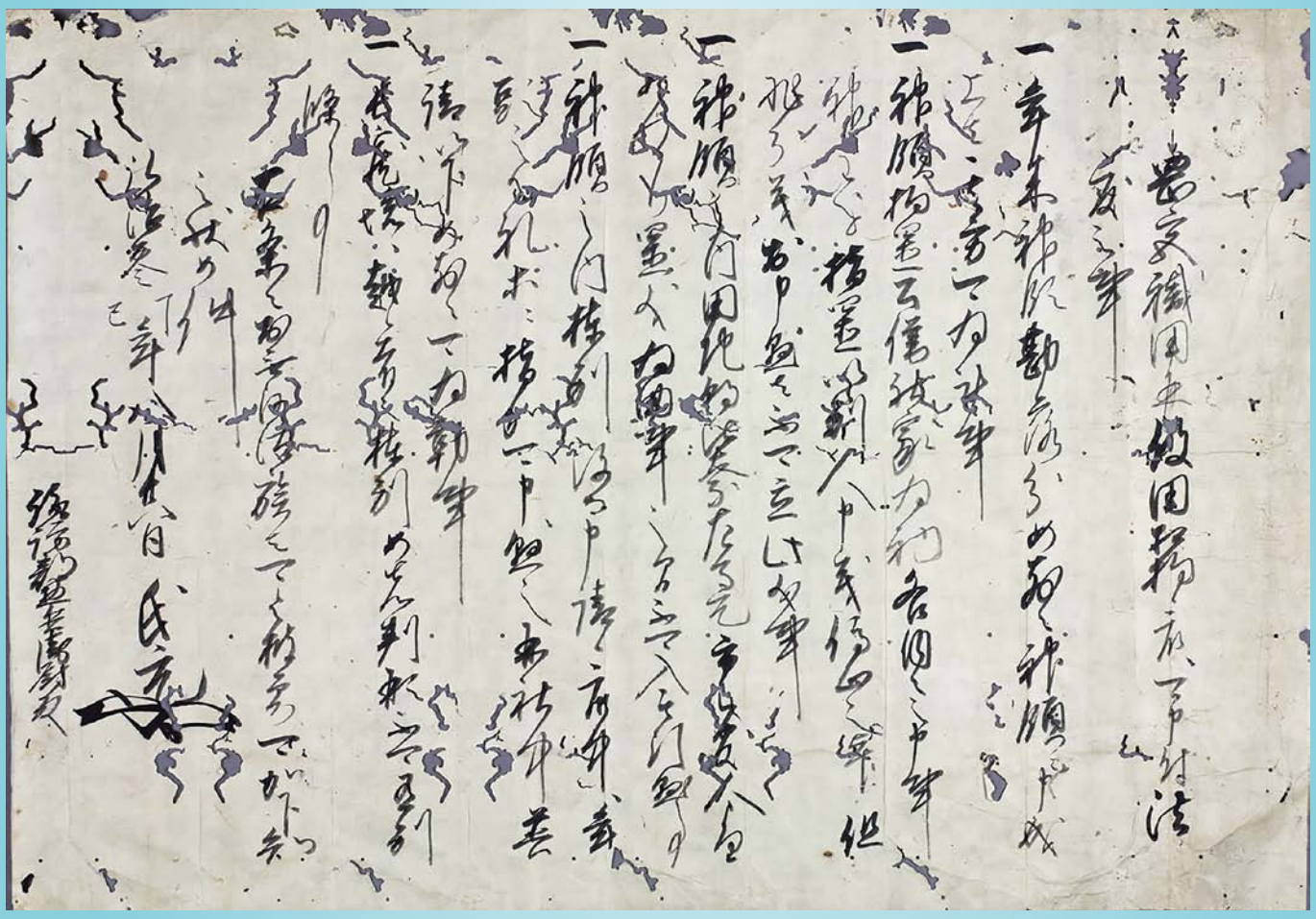
沼津市明治史料館通信
二〇一六年一〇月
通巻127号

■企画展に寄せて
富士・沼津・三島３市博物館共同企画展
駿東・北伊豆の戦国時代
「駿豆争乱　国境の攻防」
■史料館からのお知らせ



葛山氏元判物
弘治３年（1557）８月28日
（当館所蔵）

葛山氏は、葛山（裾野市）を居城とし、戦国時代、今川氏・北条氏・武田氏に従属しながら沼津地域を支配していた国人領主です。

本資料は葛山氏元が、岡宮浅間神社に法度を定めたものです。

富士・沼津・三島3市博物館共同企画展
駿東・北伊豆の戦国時代
「駿豆争乱　国境（くにざかい）の攻防」

〈三島展〉「北条五代と山中城」三島市郷土資料館
平成二八年一〇月一五日(土)～平成二九年一月二二日(日)
〈沼津展〉「駿豆争乱　国境の攻防」沼津市明治史料館
平成二八年一一月一二日(土)～平成二九年一月二九日(日)
〈富士展〉「三国同盟とその周辺」富士山かぐや姫ミュージアム
平成二八年一二月一七日(土)～平成二九年二月二六日(日)

企画展に寄せて

本年度第二回企画展のテーマは「戦国時代」である。「明治」を冠し、近代史を主とする当館でなぜ戦国時代？と思われる向きもあるかもしれないので、ここで経緯を説明しておきたい。

平成八年（一九九六）、富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会が結成され、翌年度から二二年度までの間、富士市立博物館・沼津市歴史民俗資料館（平成二二年度は沼津市明治史料館）・三島市郷土資料館の三館によって一四回の共同企画展を開催した。平成二三年度から三島市郷土資料館が、二六年度から富士市立博物館が、それぞれ耐震補強工事とリニューアルの為に長期休館するということで、二三～二七年度は共同企画展を休止し、三市事業として文化財講座などを開催してきた。

本年四月、富士市立博物館が富士山かぐや姫ミュージアムとしてリニューアルオープンし、久々に足並みが揃ったため、共同企画展を開催することとなった。以前開催していた共同企画展は三市合同の展示を各館で順番に開催していた巡回展形式であったが、今回は共通のテーマで三市の博物館がそれぞれの企画展をほぼ同時期に開催するという形式にした。これは三市協議会としては初の試みであり、県内でもあまり例がないものと思う。共通テーマで合同展を開催するということの目的として、例えばふだん沼津には来ない富士市の観覧者を沼津に呼ぶという、相乗効果を狙ったことは否定しない。むしろ三市全てを観ていただくためにスタンプラリーを実施することにした。ここには、学芸員として、より多くの方に展示を観ていただきたいという純粋な願いがある。観覧者のみなさまにとっては、以前の巡回展方式ならばご自分がお住まいの市の館に一度行けば三館の展示を観ることができて、いわば「一粒で三度美味しい」企画だったのに、と思われる向きもあるかもしれないが、企画した者としては、是非、会期中に三館を巡って、それぞれの展示をご観覧いただきたいと思っている。展示のボリュームは、面積だけとっても単純計算で巡回展の三倍の面積であり、内容については、それぞれの館の担当者が存分に趣向を凝らした見応えのあるものとなっているはずである。

北条早雲碑
（根古屋・興国寺城跡）

さて、形式は決まったが、何をテーマとするかである。「三市に共通する歴史的・民俗的テーマ」と言葉にすれば簡単だが、一本の企画展として実現できるテーマとなると、これがありそうでなかなかない。当然ながら三市それぞれが異なる地理的、歴史的背景を持っているし、博物館としても資料・情報の収集、収蔵状況なども含めて得手不得手もあり、もちろん担当する学芸員にしても得手不得手がある。そんな状況で三市の学芸員たちが模索し、検討を重ねた結果が「戦国時

代」というわけである。

このような経緯で「戦国時代」をテーマとした企画展を開催することとなり、昨年度はその準備段階として、三島・沼津の城跡めぐりバスツアーと前田利久氏（清水国際高等学校教頭）を講師に招いた文化財講座「駿東・北伊豆の戦国時代」を開催した。本年度の共同企画展は、三市それぞれの地域に残された戦国時代の古文書、資料などを展示し、各地域の戦国時代の歴史を紹介するものとなる。一館の展示を観るだけでも各市の戦国時代の様子を知っていただけるが、三つの展示を観れば、駿東・北伊豆の戦国時代の様子をより深く理解していただけるという仕掛けである。

三島市は「北条五代と山中城」、富士市は「三国同盟とその周辺」と題したが、当館で開催する沼津展は「駿豆争乱　国境の攻防」と題した。両市のように焦点を絞らず、伊勢宗瑞（北条早雲）の興国寺城での旗揚げから伊豆討入り、河東一乱、駿州錯乱、甲相合戦といった今川氏・北条氏・武田氏の三つ巴の争い、豊臣秀吉による小田原征伐までの戦国時代の始めから終わりまでの約百年間を概観し、今川氏・北条氏・武田氏らが、時に激しく争い、時に和睦した「境目」の地であったという特色を表現したつもりである。

実は、沼津市域にはこれらの戦国大名たちが発給した文書が数多く残されている。この数多く残されているという事実こそが、沼津が「境目」の土地であったことを物語るもので、沼津という地域の特色でもある。本展では、伊勢宗瑞の姉妹である北川殿が沼津道場（西光寺の前身）に発給した文亀元年（一五〇一）の「寄進状」（現存する市内最古の文書で当市指定文化財となっている）から、今川氏親の妻で「女戦国大名」の異名をとる寿桂尼の印判状、虎印判として知られる北条氏の印判状、武田信玄の沼津支配を物語る判物、三大名の間を強かに生き延びようとしていた葛山氏の判物、徳川家康の配下で沼津を治めた松平康次の判物、豊臣秀吉が天正一八年（一五九〇）の小田原攻めに際して発給した「禁制」まで、戦国時代を通じて重要な局面を語る文書の「本物」をご覧いただきたい。また、昨年度バスツアーを開催したように、沼津には戦国時代に築かれた城跡も残っており、そのうちの二つが国指定史跡となっている。ひとつは先に触れた興国寺城跡、もうひとつは天正七年（一五七九）に北条氏が水軍の最前線基地として築城した長浜城跡（昨年、史跡公園としてオープンした）である。また、武田氏が対北条氏の最前線として築いた三枚橋城もあった。これら城跡のことも併せて紹介したい。

興国寺城跡航空写真
（沼津市文化財センター提供）

長浜城跡航空写真
（沼津市文化財センター提供）

余談だが、博物館の学芸員という職にあるので、近代史を専門とする自分は百年ぐらい前までの文書を見る、触る機会は日常的にあるし、江戸時代も後期であればそう珍しいことではない。しかしながら、五百年前の古文書となると、間近に見る機会も、ましてや直に触れる機会などそうそうあるものではない。今回は学芸員としても貴重な経験をさせていただけることは望外の幸せである。一見すると墨で書かれた薄汚い和紙が並んでいるだけの地味な展示と思われてしまうかもしれないが、「本物」が持つ迫力とひとつひとつの文書が語る戦国時代の沼津の様子を味わっていただければ幸いである。

沼津展を担当している学芸員の私も、富士展、三島展の詳細までは把握できておらず、それぞれの企画展が開くのを楽しみに、自館の展示の準備を進めている。

ご来館おまちしております。

富士・沼津・三島３市博物館共同企画展

駿東・北伊豆の戦国時代

平成28年度第２回企画展のお知らせ

平成二八年度第二回企画展

駿豆争乱

国境（くにざかい）の攻防

平成二八年一一月一二日（土）～平成二九年一月二九日（日）

歴史講演会

「戦国の争乱と沼津―境界の戦国史―」

講師　則竹　雄一　氏（獨協中学・高等学校教諭　元沼津市史編さん特任調査員）

日時　平成29年1月8日（日）14時から（開場13時30分）

会場　沼津市明治史料館２階講座室

定員　100名　11月12日から電話または直接来館のうえ申込み・先着順

ギャラリートーク

学芸員が展示会場で解説します

・平成28年11月19日（土）11時から

・平成28年12月18日（日）11時からと、14時から

＊申込み・参加料不要

当日直接会場へお越しください（観覧料が必要です）

富士

三国同盟とその周辺

平成二八年一二月一七日～平成二九年二月二六日

三島

北条五代と山中城

平成二八年一〇月一五日～平成二九年一月二二日

3市博物館共同企画展とは

富士市の富士山かぐや姫ミュージアム・三島市の三島市郷土資料館と３館共通のテーマで開催する企画展です。今回は３市の戦国時代にスポットを当て、武田・北条・今川が領地を争った駿東・北伊豆地域の歴史を探ります。３館の資料を見比べることで、地元の歴史がより深く、また広がりを持って見えてくることでしょう。是非、３館をめぐってご覧いただければと思います。

―富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会―

3市3館 スタンプラリー 開催

3つの博物館をめぐって
スタンプを集めよう！

本展オリジナル賞品をプレゼントします!!
なくなり次第終了　チラシの裏面が台紙になっています

夏のイベント　報告

☆「戦時中のくらしを体験しよう」
　8月3日(水)　参加人数…30人
☆「平和を考える戦争史跡めぐり」
　8月5日(金)　参加人数…23人
　8月7日(日)　参加人数…19人
☆「高校生のための１日学芸員体験講座」
　8月9日(火)　参加人数…14人

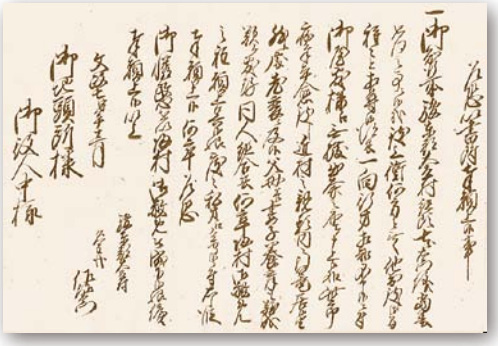
真夏の暑さの中、
みなさんお疲れ様でした！

焼夷弾の模型の下で戦時中の沼津について、学芸員によるレクチャーを受けました。

古文書入門講座　報告

９月３日から10月１日の毎土曜日午前中、全５回で「古文書入門講座」を開催しました。この講座は当館開館の翌年（昭和60年）から続いている、初心者向けの古文書解読講座です。今年は20人が受講しました。

歴史系の展覧会に展示してある古文書を見て「何て書いてあるのだろう？ 読めたらいいのに」と思ったことはありませんか？　そんな方にお勧めのこの講座では、地元の江戸時代に書かれた地方文書（じがたもんじょ）をテキストにして、基本的なくずし字の読み方を学びます。毎年９月に開催しますので、受講希望の方は明治史料館までお問合せください。ご参加お待ちしております。



大平村の作治右衛門が、出奔届けを出されて近村へ引篭っていた七郎右衛門の帰村を許して欲しいと地頭所へお願いした文書（大平原家文書より）

乍恐以書附奉願上候事

一御知行所駿東郡大平村組頭七郎右衛門儀当春
如何之事ニ候哉致上衡何方と無之他出致候間
種々と相尋候得共一向行方相知不申候ニ付
御屋敷様江無據出奔之届ケ申上候処此節
病気平癒致し近村之親類内引篭居候由
然處老衰ニ及候父母并妻子養育も難成
難ケ敷存同人組合共何卒帰村御赦免
之程願上呉候様度々私方江参り候ニ付右段
奉願上候何卒乍恐
御憐愍を以帰村御赦免被成下候様偏ニ
奉願上候以上

文政七申年十二月　駿東郡大平村　名主代　作治右衛門

御地頭所様
御役人中様

沼津市明治史料館通信
第127号
平成28年10月25日
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL055－923－3335
FAX055－925－3018
印　刷
みどり美術印刷株式会社

休館のおしらせ

企画展の展示作業のため、下記の期間休館させていただきます。

11月7日(月)
から
11月11日(金)